

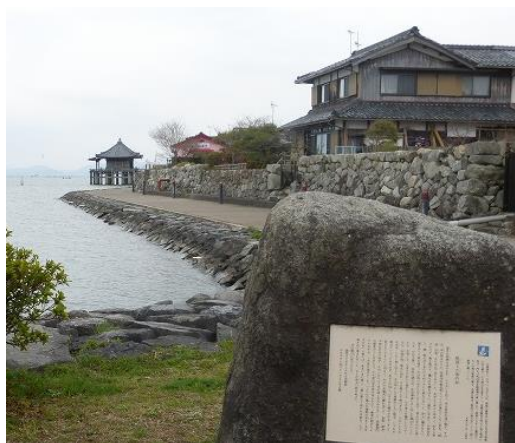
きつとワクワクしが

07号

'18. 3. 15
KIT同窓会滋
賀県支部理事

4月15日(日)見学の「堅田湖族の郷」をもっと知ろう

昨秋、計画して台風接近のため中止した企画「堅田・湖族の郷巡り」が4月15日に開催されます。すでに案内をご覧になっていると思います。そこで、開催地堅田について、少し関連知識を提供します。参加の検討や、見学会をより深く、ひろく楽しむために活用ください。



十六夜公園から浮見堂を眺める



堅田港から疎水を眺める

堅田の中世 中世、びわ湖の狭窄部堅田は水運業が栄えていました。また、漁業を生業とする漁師たちは、そこでとれた魚を献上することにより、古代の渡来人鴨族を神祖とする下賀茂神社の御厨になり、支配下にありました。その後、堅田やその周辺部に、比叡山延暦寺の荘園ができるようになりました。すると、都から地頭として任命されている佐々木信綱は、延暦寺や下賀茂神社と対抗して、堅田に湖上関を設け、他所の船を排除するようになりました。それに対抗して、下賀茂神社が、堅田の漁師や船頭には、そこでの漁業権や水上通行権の特権を保障したため、近江守護職である佐々木氏と、堅田やその漁業権、航行権をめぐる激しく対抗するようになりました。

中世以後、堅田は、地侍の殿原衆と商工業者・周辺農民の全人衆からなる「堅田衆」による自治が行われており、「堅田湖族」とも呼ばれていました。殿原衆は、堅田の水上交通に従事、船団を保有して、時には、他船を没収するという行為を行うこともありました。また、海賊行為を行って他の琵琶湖沿岸都市を牽制しつつ、堅田衆の指導的な地位を確保していました。一方、全人衆の中には商工業によって富を得るものも多く、殿原衆との共存関係を築き、その財力により中世堅田の繁栄をもたらしました。その結果、臨濟宗や浄土真宗の多くの寺院でき、俳諧など文化的隆盛をもたらしました。

今回の見学で、その偉功や遺跡をじっくりとご確認ください。

堅田と芭蕉 放浪の旅を生継続けた俳人松尾芭蕉は、42歳の時初めて、堅田本福寺の住職千那の招きで大津に来たそうです。時は3月。堅田本福寺に滞在し、湖畔の風景や風物を詠んだ句も多く、千那への手紙に記した、あの有名な句「からさきの松は花よりおぼろにて」(野ざらし紀行)は、47歳3度目の堅田訪問のとき、風邪のため本福寺で床に伏していた際の句「病鷹の夜寒に落ちて旅寝かな」とともに、本福寺に句碑として残っています。とんちで有名な一休和尚が、若いとき修業し得度したところとして有名な祥瑞寺には、「朝茶飲む僧静かなり菊の花」の句碑がある。祥瑞寺は、禅寺京都大徳寺の末寺であります。早朝の静寂の中、心身ともに澄み切った心境で喫茶する雰囲気がよくてた句として有名です。

また、元禄4年堅田訪問7回時に読んだ句「錠開けて月差し入れよ浮見堂」はあまりにも有名で、びわ湖を挟み、ともに雪冠り、対比してある比良山と三上山に、真っ白い鷺の橋を渡してくれと詠ん

だ句「比良三上ゆきさしわたせ鷺の橋」とともに、浮見堂には句碑があります。

また、堅田の門人竹内茂兵衛茂秀の家にて遊んだ際、そのもてなしを謝し「堅田十六夜の弁」を残した、その全文が、今、近くの公園に句碑として残され、毎秋、今回、講演いただく細川先生により朗々と吟じられる「十六夜の宴」が開催されます。堅田は、今なお、風雅なところであり続けています。



このように芭蕉は、こよなく琵琶湖畔を愛し、堅田には何度も訪れ、優れた句を残していますが、その一部を紹介しました。今なお俳諧の盛んな地、芭蕉が愛してやまなかった湖畔の風情を、ご自身の眼で、しっかり確かめ味わっていただきたく思います。

今回の「湖族の郷」巡りは、滋賀県支部会員に限らず、京都工芸繊維大学の卒業生、関係者、現役生に広く参加を呼びかけ、われわれ滋賀県支部がすすめる「滋賀のよさ再発見」を楽しんでもらおうと考えております。ぜひ、関心のある方は、以下の問い合わせ先に連絡ください。なお、懇親会に参加していただくのも大歓迎です。参加申し込みお待ちしております。

参加費は、「湖族の郷」巡りのみの場合1千円（学生500円）、懇親会含む場合8千円です。

お問い合わせ先：増田（qrmy10598@gaia.eonet.ne.jp）まで。

能楽部OB会(交扇会)定例会

探訪 大津・瀬田 萱野神社

今年2月25日、淡海の国造りの祖となるらしい開化天皇を御祭神とする萱野神社で、滋賀県支部の井上良一氏（C33卒）主宰の能楽愛好会の例会を聴かせていただいた。当日は、8人のOBにより、栗津の浜で武将の出逢いをテーマにした「巴」や三保の松原の「羽衣」など、素人にも馴染みのある素謡5編が吟じられ、その格調の高さにうっとりでした。3時間以上続きますが、途中で辞去しました。来年、例会50回を記念して、京都・北大路の新謡会館で開催らしいです。ひとりでも多く参加して、応援したいですね。



KIT同窓会費納入にご協力ください：みなでワクワク推進するために

滋賀県支部の活動の一つに、母校の応援活動があります。同窓会本部でも、同様の趣旨で、種々企画検討されていますが、資金難のため、十分な成果に至っていません。その主たる理由は、会費納入率が極めて低いためです。滋賀県支部全体でも数%にも満たないそうです。会費は、各支部や各部会活動に対する補助金の原資で、その活動の支援源です。

<納入方法については以下の通り>

KIT同窓会費の最新会費納入状況は、「同窓会誌”工織”平成29年度NO11のP44～48に記載されています。年額 3,000円、終身会費 30,000円です。よろしく願います。